

その33 尊延寺

(平成12年5月1日号—第206号)

枚方市駅から穂谷方面行きのバスに乗り、国道307号を30分ほど揺られると、国道の両側に寄り添うようにして立つ集落があります。生駒山系の北端に位置し、周囲は山で囲まれた里、そこが今回紹介する尊延寺[そんえんじ]です。

地名の由来ともなった尊延寺は、この地域の北東部にあり、天平3年(731)に勅願[ちよくがん]によって宣教大師[せんぎょうだいし]が建立したと伝えられています。

その後、文明18年(1486)には、尊延寺に18の僧房があったことが、『穂谷三之宮大明神年表録』^{*1}で明らかになりました。今はその僧房の一つの池之坊が往時をしのばせるだけです。



57 巖島神社末社春日神社本殿(尊延寺5丁目)

また、集落の南東部には巖島[いつくしま]神社があります。その末社の春日神社本殿は、建築様式からみて建造年代は室町時代中期に遡ることがわかり、昭和53年に国の重要文化財の指定を受けました。なお、本殿は平成6年に解体修理され、当時の姿に復元されています。

ところで、天保8年(1837)大塩平八郎の乱のとき、大塩に学んだ尊延寺村の深尾才次郎は、救民に立ち上がった大塩に加勢するため、村内のほか杉・穂谷村の農民らと大坂に向かいました。しかし、大塩の乱はすでに鎮圧されていたので、才次郎は能登に逃亡しましたが、捜査の手が伸びたのを知り自害し、村人は帰村の途中、またはその後捕らえられ処罰されたと『枚方市史』に記されています。

歴史の一コマをしのばせる当地を、皆さんも一度訪れてみられてはいかがでしょうか。



58 才次郎の墓(尊延寺5丁目)

^{*1} この史料は偽文書とする説があり、それによると信憑性に欠ける部分があるという。